

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和2年第Ⅳ四半期（10～12月）

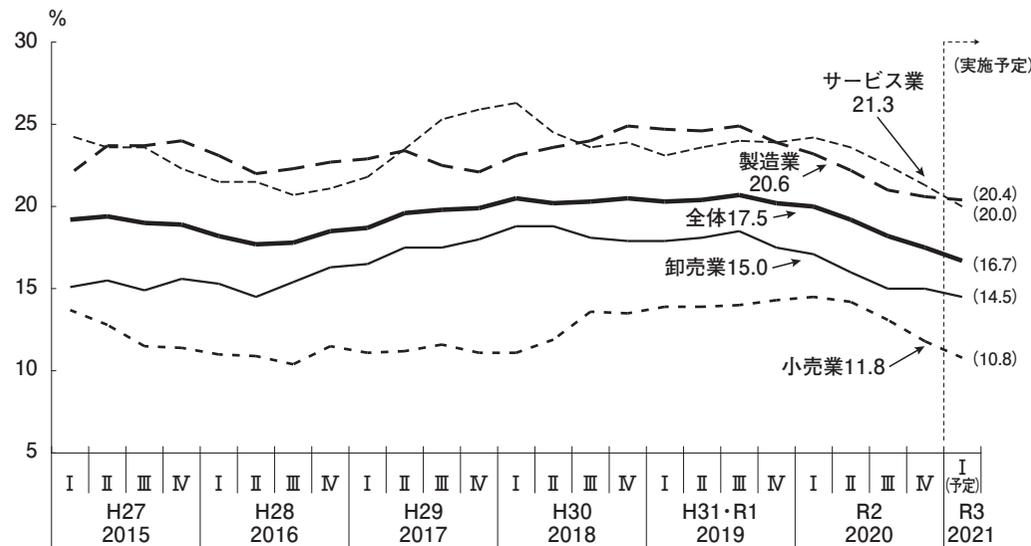
設備投資：5期連続で減少 資金繰り：2期連続で改善
 採算状況：2期連続で改善 雇用人員：不足に転じる

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和2年10～12月）に設備投資を「実施した」割合は全体では17.5%となり、前期（令和2年7～9月）の18.2%からやや減少した。5期連続で減少しており設備投資に対して慎重な姿勢が続いている。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は小売業11.8%（前期13.1%）とサービス業21.3%（同22.5%）とともに減少、製造業20.6%（同21.0%）はわずかに減少、卸売業15.0%（同15.0%）は横ばいで推移した。

図表1-1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注) 来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

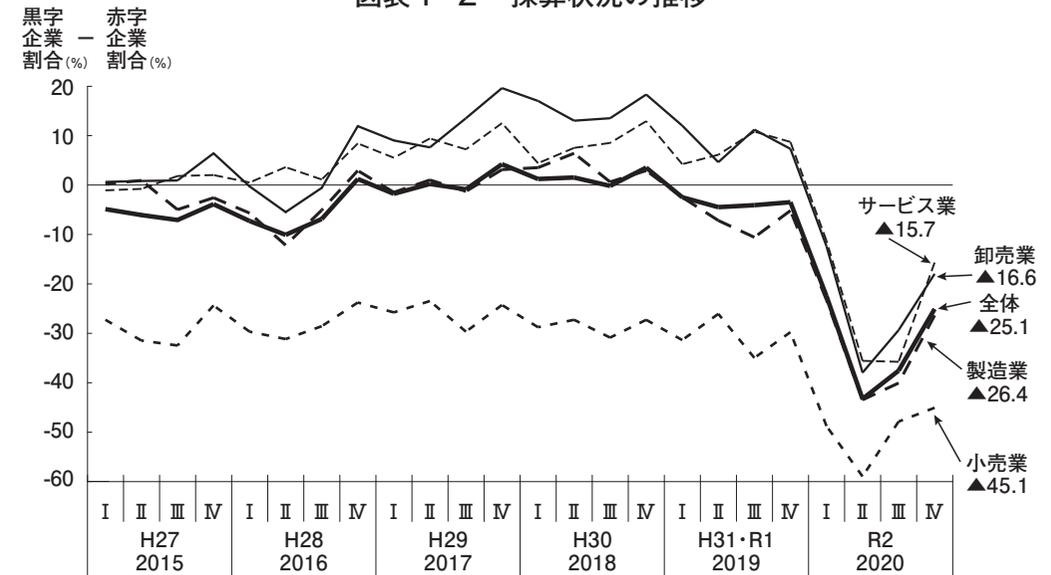
来期（令和3年1～3月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では16.7%となり、当期と比べてやや減少する見通しとなった。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲25.1（前期▲37.6）となり、2期連続で改善した。

業種別にみると、製造業、卸売業、サービス業は前期と比べていずれも大幅に改善、小売業はやや改善した。

図表1-2 採算状況の推移

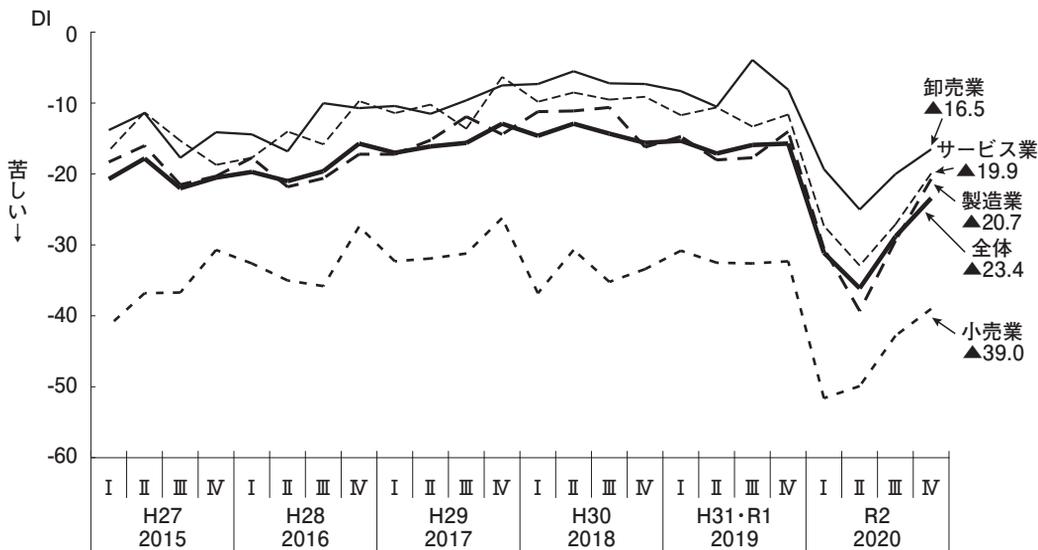


■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、全体では▲23.4（前期▲28.8）となり、2期連続で改善した。

業種別にDI値をみると、製造業▲20.7（同▲29.4）は8.7ポイント増加、サービス業▲19.9（同▲27.1）は7.2ポイント増加しともに大幅に改善、小売業▲39.0（同▲42.8）は3.8ポイント増加、卸売業▲16.5（同▲20.0）は3.5ポイント増加しともに改善した。

図表 1-3 資金繰りDIの推移



■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI (「不足」-「过剩」) でみると、全体では2.9 (前期▲1.0) となり、不足に転じた。

業種別にDI値をみると、製造業▲4.8 (同▲11.3) は6.5ポイントと大幅に増加、卸売業2.9 (同▲1.9) は4.8ポイント増加、サービス業10.0 (同8.1) は1.9ポイント、小売業3.3 (同2.8) は0.5ポイントとともにわずかに増加した。

図表 1-4 雇用人員DIの推移

